

コンクリートの未来探る

北陸3県学生がセッション

金沢大学、金沢工業大
学、石川工業高等専門学
校、富山県立大学、福井大
学の北陸3県のゼミ生、
学生計20人は21日、津幡

町の石川高専でコンクリ
ート構造物の未来の維持
管理のあり方を検討する
セッションを行い、AI
(人工知能)技術の活用



来月のフォーラムで発表へ

や人材育成など、新たな
可能性を探った「写真」

学生たちは、2月15日
に富山市で開かれる「こ
れからの維持管理を支え
る技術と人材を考えるフ
ォーラム」(主催・日本
コンクリート工学会中部
支部)で、この日の研究
成果を発表する。

セッションでは、他校
の学生同士6〜7人が混
成の3グループを結成。
各学校で実施したアンケ
ート結果を参考に、橋や
トンネルなどコンクリー
ト構造物に関する点検・
補修技術、材料・構造形
式、人材育成・発注方法
の各テーマごとに内容を

掘り下げ、フォーラムで
使うプレゼンテーション
用のスライドを作った。
学生たちは、超音波や
X線で構造物の内部を調

べるGoogle型の点検装
置の開発や、特殊な光を
照射して劣化要因を色別
でできる維持管理手法など
を提案していた。